

2017年6月8日

経済レポート

景気ウォッチャー調査(東海地区:2017年5月)

~ 現状判断DIは2ヶ月連続で上昇 ~

調査部 塚田裕昭 杉本宗之

6月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、**東海地区の5月の現状判断DI(3ヶ月前と比較 しての景気の現状に対する判断** 季節調整値)は、前月差 0.6 ポイント上昇の 50.0 と2ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 1.1 ポイント低下の 50.8 と4ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50を4ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連) DIは、同 1.3 ポイント低下の 48.5 と2ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を 2ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなる DIは、同 1.0 ポイント低下の 55.3 と 2ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を 6ヶ月連続で上回った(注 1)。

現状判断DI(方向性)

ı	各分野計(季節調整値)			各分野計(原数値)			家計動向関連(原数値)			企業動向・雇用関連(原数値)								
L	年	月	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
I	17	3	48.9	-1.4	47.4	-1.2	51.7	0.8	50.6	2.1	50.7	1.8	49.7	3.1	53.8	-1.4	52.4	0.1
		4	49.4	0.5	48.1	0.7	51.9	0.2	50.4	-0.2	49.8	-0.9	49.5	-0.2	56.3	2.5	52.2	-0.2
L		5	50.0	0.6	48.6	0.5	50.8	-1.1	50.1	-0.3	48.5	-1.3	48.9	-0.6	55.3	-1.0	52.5	0.3

5月の先行き判断DI(2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断 季節調整値)は、前月差 1.2 ポイント上昇の 49.4 と 2 ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 1.9 ポイント上昇の 52.2 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断 DI は、同 1.5 ポイント上昇の 50.3 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 3 ヶ月ぶりに上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断 DI は、同 2.4 ポイント上昇の 55.9 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上回った。

先行き判断DI(方向性)

	各分野計(季節調整値)		各分野計(原数値)			家計動向関連(原数値)			企業動向・雇用関連(原数値)								
年	月	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
17	3	47.8	-4.5	48.1	-2.5	48.0	-4.8	49.0	-2.5	47.2	-4.4	48.8	-2.4	49.7	-5.5	49.4	-2.7
	4	48.2	0.4	48.8	0.7	50.3	2.3	50.4	1.4	48.8	1.6	49.9	1.1	53.5	3.8	51.5	2.1
	5	49.4	1.2	49.6	0.8	52.2	1.9	51.5	1.1	50.3	1.5	50.7	0.8	55.9	2.4	53.1	1.6

現在の景気の水準自体に対する判断DI(季節調整値) は、5月は前月差 0.5 ポイント上昇の 49.0 と 25 ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 0.5 ポイント低下の 48.9 と 45 ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を 25 ヶ月連続で下回った。分野別 (原数値) にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同 1.2 ポイント低下の 45.6 と 25 ヶ月連続で低下し、中立を示す 50 を 38 ヶ月連続で下回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同 1.4 ポイント低下の 1.50 を 1.50 を

現状判断DI(水準)

		各分野計(季節調整値)			各分野計(原数値)			家計動向関連(原数値)			企業動向·雇用関連(原数値)			製値)			
Í	∓ 月	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差	東海	前月差	全国	前月差
1	7 3	46.0	-3.1	45.3	-1.5	49.7	0.1	48.4	2.0	47.5	0.4	46.5	3.2	54.1	-0.8	52.4	-0.5
	4	48.5	2.5	47.0	1.7	49.8	0.1	48.9	0.5	46.8	-0.7	47.0	0.5	56.0	1.9	53.0	0.6
	5	49.0	0.5	47.5	0.5	48.9	-0.9	48.3	-0.6	45.6	-1.2	45.9	-1.1	55.6	-0.4	53.1	0.1



内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方として「持ち直しが続いている。先行きについては、人手不足に対する懸念もある一方、引き続き受注や設備投資等への期待がみられる」とまとめ、現状については先月の判断から引き上げ、先行きについては先月の判断を据え置いた。(4月のまとめ)「持ち直しが続いているものの、引き続き一服感がみられる。先行きについては、人手不足やコストの上昇に対する懸念もある一方、引き続き受注や設備投資等への期待がみられる」

東海経済についての東海地区の景気ウォッチャーの見方は「景気は横ばい圏で推移しているが、 持ち直しの動きがみられる。先行きについては、ボーナス、夏休みといった季節要因や外需の伸 びに期待する声がやや広がっているが、総じて見ると、横ばいの動きが見込まれている」とまと められる。

(4月のまとめ)「景気の持ち直しの動きに一服感がみられる。先行きについては、各種イベントや季節要因による改善への期待が続く一方、消費者の購買意欲の低迷、世界経済の不確実性、原材料価格上昇による企業収益悪化などへの懸念もあり、慎重な見方が続いている」

景気の現状判断 D I (季節調整値)は 50.0 と 2 ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 1.1 ポイント低下の 50.8 と 4 ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を 4 ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連の現状判断は 2 ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で下回った。新商業施設のオープンなどのイベント要因や、GWという季節要因がプラスに働く場合もあれば、それがマイナスに働く場合もあり、D I は中立的な水準に落ち着いている。企業動向・雇用関連の現状判断は 2 ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を 6 ヶ月連続で上回った。受注の改善や雇用の逼迫が高めのD I につながっている。

景気の先行き判断 DI(季節調整値)は49.4と2ヶ月連続で上昇した。原数値では、前月差1.9ポイント上昇の52.2と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連の先行き判断は2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。ボーナス、夏休みといった季節要因による改善への期待がやや広がっているが、改善理由が見当たらないとの声も散見される。企業動向・雇用関連のDIは2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。外需への期待や雇用逼迫が続くとの見込みが高水準のDIにつながっている。

- (注1) 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動 向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。
- (注2) 3大都市圏の都府県内訳は以下の通り。東海 = 愛知、岐阜、三重、静岡南関東 = 埼玉、千葉、東京、神奈川近畿 = 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

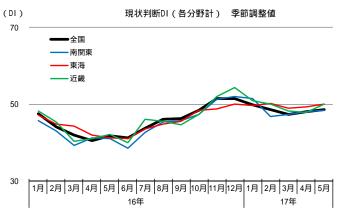


1.DIの動向

(1)季節調整値の動向

景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

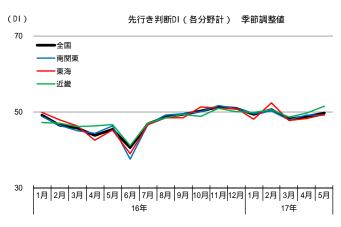
3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断 D I は、前月差 0.6 ポイント上昇の 50.0 と 2ヶ月連続で上昇した。全国、南関東よりやや高く、近畿とほぼ同水準となった。

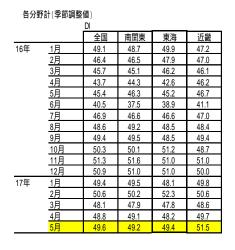


口刀对们(于你则走吧)									
		DI							
		全国	南関東	東海	近畿				
16年	1月	47.6	45.8	47.2	48.3				
	2月	44.1	43.0	44.9	45.4				
	3月	42.0	39.3	44.3	40.3				
	4月	40.6	41.3	42.0	41.1				
	5月	41.7	41.0	41.2	42.1				
	6月	41.2	38.6	41.1	40.0				
	7月	43.8	42.7	43.6	46.0				
	8月	46.0	45.4	44.9	45.6				
	9月	46.3	45.8	45.6	44.7				
	10月	48.4	47.3	48.5	47.3				
	11月	51.4	51.3	48.7	52.1				
	12月	51.4	52.0	50.1	54.4				
17年	1月	49.8	51.4	49.6	50.9				
	2月	48.6	46.8	50.3	50.1				
	3月	47.4	47.4	48.9	48.3				
	4月	48.1	48.1	49.4	47.9				
	5月	48.6	48.5	50.0	50.1				

景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

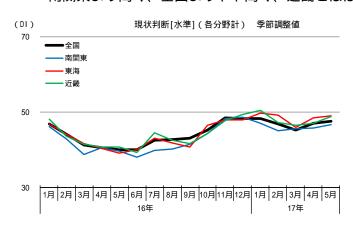
2~3~ヶ月先の景気の先行きに対する判断 D I は、前月差 1.2~ポイント上昇の 49.4~と 2~ヶ月連続で上昇した。近畿より低く、全国、南関東とほぼ同水準となった。





景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DIは、前月差 0.5 ポイント上昇の 49.0 と 2 ヶ月連続で上昇した。 南関東より高く、全国よりやや高く、近畿とほぼ同水準となった。



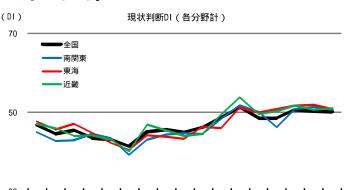
各分野計(季節調整値) DI								
		全国	南関東	東海	近畿			
16年	1月	46.9	46.2	46.9	48.1			
	2月	44.2	42.9	44.1	43.7			
	3月	41.3	38.8	41.7	41.4			
	4月	40.5	40.5	40.4	40.7			
	5月	40.0	39.7	39.2	40.7			
	6月	40.0	38.1	40.0	39.3			
	7月	42.5	39.9	43.0	44.5			
	8月	42.8	40.2	41.8	42.6			
	9月	43.0	41.4	40.8	41.6			
	10月	45.3	44.3	46.4	44.3			
	11月	48.4	48.3	47.9	47.8			
	12月	48.3	48.7	48.0	49.4			
17年	1月	48.2	47.1	49.7	50.4			
	2月	46.8	45.0	49.1	47.2			
	3月	45.3	45.5	46.0	46.5			
	4月	47.0	45.7	48.5	47.1			
	5月	47.5	46.6	49.0	48.8			



(2)原数値の動向

景気の現状判断 (3ヶ月前との比較、方向性)

3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断 DI(各分野計)は、前月差 1.1 ポイント低下の 50.8 と 4ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を 4 ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準 となっている。



1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月

各分野計(家計動向関連+企業動向関連+雇用関連) 全国 南関東 近畿 47.6 16年 44.9 1月 46.6 47.1 44.6 42.8 45.6 45.9 45.4 42.9 47 1 44.0 43.5 44 6 44 7 44 1 43.0 43.4 42.2 43.1 41.2 40.3 40.1 7月 45.1 43.2 44.2 46.9 45.6 45 4 9月 44.8 44.7 43.3 43.9 10月 46.2 44.5 46.4 44.5 11月 48.6 48.3 46.0 49.4 51 2 51.8 51.3 53.6 17年 1月 48 6 50.2 50.0 495 48.5 46 1 50.9 50.3 3月 50.6 50.8 51.7 51.7 50.7

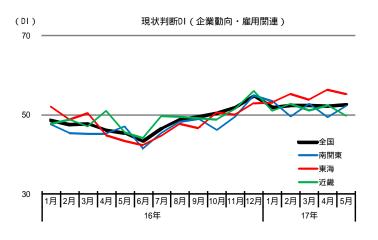
家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連) DIは、同1.3ポイント低下の48.5と2ヶ月連続で 低下し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。近畿より低く、南関東よりやや低く、全国とほぼ同 水準となっている。





豕計動	家計動问関理(小売関連+飲食関連+サービス関連+住宅関連)									
		DI			_					
		全国	南関東	東海	近畿					
16年	1月	45.6	43.7	45.4	46.8					
	2月	43.2	41.5	44.0	44.4					
	3月	44.3	41.8	45.4	42.4					
	4月	42.2	44.2	44.6	40.7					
	5月	41.9	41.6	41.6	41.9					
	6月	40.2	37.9	39.3	38.1					
	7月	44.5	42.1	44.0	45.4					
	8月	44.1	42.4	42.0	43.2					
	9月	42.6	42.6	41.6	41.1					
	10月	44.1	43.7	44.2	42.3					
	11月	47.1	47.8	44.0	48.3					
	12月	49.6	50.4	50.5	52.4					
17年	1月	47.0	48.6	48.5	48.8					
	2月	46.6	44.5	48.9	48.9					
	3月	49.7	49.9	50.7	52.0					
	4月	49.5	52.3	49.8	49.9					
	5月	48.9	49.9	48.5	51.7					

企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同1.0ポイント低下の55.3と2ヶ月ぶりに低下したが、横ば いを示す50を6ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。

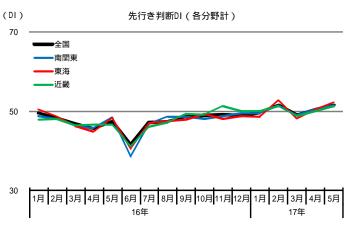


企業動	企業動向関連 + 雇用関連 DI									
		全国	南関東	東海	近畿					
16年	1月	48.6	47.5	51.9	47.7					
	2月	47.5	45.3	48.7	48.8					
	3月	47.8	45.3	50.3	47.0					
	4月	46.1	45.3	44.8	50.9					
	5月	45.3	47.1	43.4	45.6					
	6月	43.2	41.5	42.3	44.0					
	7月	46.4	45.3	44.7	49.7					
	8月	48.7	48.3	47.7	49.4					
	9月	49.4	49.0	46.7	49.2					
	10月	50.4	46.2	50.6	48.8					
	11月	51.8	49.5	50.0	51.5					
	12月	54.7	54.9	52.9	56.0					
17年	1月	51.9	53.4	53.0	50.9					
	2月	52.3	49.5	55.2	52.7					
	3月	52.4	52.7	53.8	51.2					
	4月	52.2	49.2	56.3	52.3					
	5月	52.5	52.2	55.3	49.7					



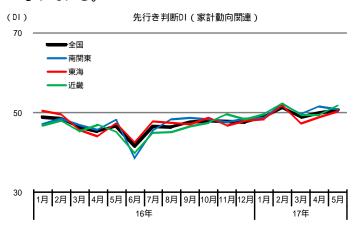
景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断 D I (各分野計)は、前月差 1.9 ポイント上昇の 52.2 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。



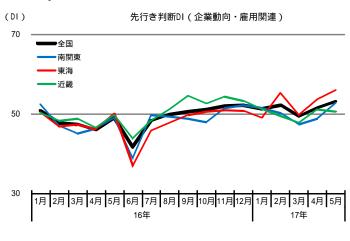
各分野計(家計動向関連 + 企業動向関連 + 雇用関連)								
		DI			_			
		全国	南関東	東海	近畿			
16年	1月	49.5	48.8	50.4	47.9			
	2月	48.2	48.0	48.6	48.0			
	3月	46.7	46.3	46.3	46.5			
	4月	45.5	45.8	44.8	46.7			
	5月	47.3	48.5	48.2	46.6			
	6月	41.5	38.7	40.5	41.1			
	7月	47.1	46.8	47.1	46.1			
	8月	47.4	48.6	47.5	47.1			
	9月	48.5	48.7	47.9	49.3			
	10月	49.0	48.1	49.4	49.2			
	11月	49.1	48.8	48.2	51.2			
	12月	49.0	49.6	48.8	50.0			
17年	1月	49.7	49.6	48.6	50.1			
	2月	51.5	51.5	52.8	51.3			
	3月	49.0	48.9	48.0	48.8			
	4月	50.4	50.6	50.3	50.0			
	5月	51.5	51.4	52.2	51.3			

家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同1.5ポイント上昇の50.3と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を3ヶ月ぶりに上回った。近畿よりやや低く、全国、南関東とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連 + 飲食関連 + サービス関連 + 住宅関連)									
		DI			_				
		全国	南関東	東海	近畿				
16年	1月	48.8	47.2	50.5	46.6				
	2月	48.5	48.5	49.5	47.9				
	3月	46.4	46.9	45.7	45.3				
	4月	45.3	45.6	44.1	46.8				
	5月	46.5	48.2	47.3	45.1				
	6月	41.5	38.6	42.4	39.7				
	7月	46.6	45.4	47.7	45.0				
	8月	46.3	48.2	47.4	45.0				
	9月	47.5	48.6	47.0	46.5				
	10月	47.9	48.2	48.7	47.4				
	11月	47.7	47.6	46.7	49.5				
	12月	47.6	48.4	48.0	48.2				
17年	1月	48.9	48.7	48.4	49.6				
	2月	51.2	52.1	51.6	52.3				
	3月	48.8	49.7	47.2	49.4				
	4月	49.9	51.5	48.8	49.4				
	5月	50.7	50.8	50.3	51.7				

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断DIは、同2.4ポイント上昇の55.9と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い水準となっている。

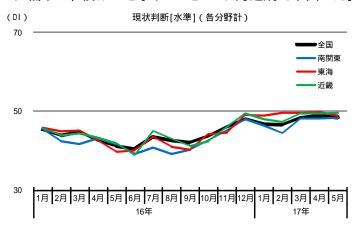


企業動向関連 + 雇用関連 DI								
		全国	南関東	東海	近畿			
16年	1月	50.8	52.3	50.3	50.3			
	2月	47.7	47.1	46.8	48.3			
	3月	47.4	45.0	47.4	48.8			
	4月	46.0	46.3	46.2	46.5			
	5月	49.0	49.0	50.0	49.7			
	6月	41.6	38.8	36.9	43.8			
	7月	48.3	49.8	45.7	48.3			
	8月	49.8	49.3	47.7	51.1			
	9月	50.6	48.8	49.7	54.5			
	10月	51.1	47.8	50.6	52.6			
	11月	51.9	51.5	51.0	54.4			
	12月	52.1	52.2	50.7	53.3			
17年	1月	51.3	51.5	49.0	51.2			
	2月	52.1	50.2	55.2	49.5			
	3月	49.4	47.3	49.7	47.7			
	4月	51.5	48.7	53.5	51.1			
	5月	53.1	52.7	55.9	50.6			



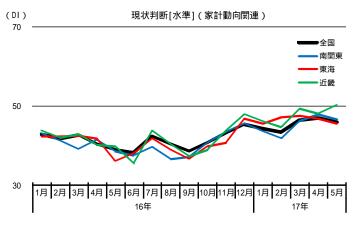
景気の現状判断(水準)

現在の景気の水準自体に対する判断DI(各分野計)は、前月差 0.9 ポイント低下の 48.9 と 4 ヶ月ぶりに低下し、横ばいを示す 50 を 22 ヶ月連続で下回った。全国、南関東、近畿とほぼ同水準となっている。



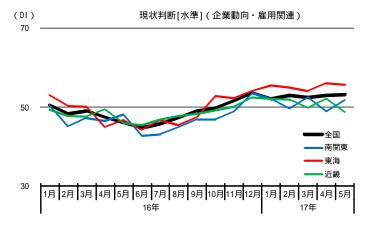
各分野計(家計動向関連 + 企業動向関連 + 雇用関連)									
		DI							
		全国	南関東	東海	近畿				
16年	1月	45.3	45.5	45.9	45.7				
	2月	43.9	42.5	44.9	43.8				
	3月	44.7	41.7	45.1	44.5				
	4月	42.6	43.1	42.7	43.2				
	5月	41.1	41.7	39.6	41.9				
	6月	40.3	39.1	40.1	38.9				
	7月	43.4	40.8	43.4	44.8				
	8月	42.5	39.2	41.0	42.9				
	9月	42.0	40.2	40.2	41.2				
	10月	43.7	42.7	44.1	42.4				
	11月	46.0	45.1	44.6	45.9				
	12月	48.0	48.0	49.1	49.4				
17年	1月	46.7	46.3	48.8	48.1				
	2月	46.4	44.3	49.6	47.2				
	3月	48.4	48.2	49.7	49.4				
	4月	48.9	48.2	49.8	49.4				
	5月	48.3	48.3	48.9	49.6				

家計動向関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断 D I は、同 1.2 ポイント低下の 45.6 と 2 ヶ月連続で低下し、中立を示す 50 を 38 ヶ月連続で下回った。近畿より低く、南関東よりやや低く、全国とほぼ同水準となっている。



家計動向関連(小売関連 + 飲食関連 + サービス関連 + 住宅関連)									
		DI							
		全国	南関東	東海	近畿				
16年	1月	42.8	43.1	42.3	43.8				
	2月	41.7	41.1	42.2	41.9				
	3月	42.6	39.1	42.5	42.8				
	4月	40.3	41.4	41.7	40.1				
	5月	38.8	38.6	36.0	39.8				
	6月	38.2	37.4	38.0	35.4				
	7月	42.3	39.7	41.8	43.8				
	8月	40.3	36.6	38.9	40.4				
	9月	38.6	37.0	36.6	37.3				
	10月	40.7	40.6	39.7	38.9				
	11月	43.2	43.4	40.7	43.7				
	12月	45.4	45.6	46.8	47.8				
17年	1月	44.2	43.5	45.6	46.1				
	2月	43.3	41.8	47.1	44.5				
	3月	46.5	46.2	47.5	49.3				
	4月	47.0	47.9	46.8	48.1				
	5月	45.9	46.7	45.6	50.2				

企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の水準自体に対する判断DIは、同 0.4 ポイント低下の 55.6 と 2 ヶ月ぶりに低下したが、中立を示す 50 を 8 ヶ月連続で上回った。全国、南関東、近畿より高い 水準となっている。



企業動向関連 + 雇用関連						
		DI				
		全国	南関東	東海	近畿	
16年	1月	50.4	50.5	52.9	49.4	
	2月	48.3	45.1	50.3	47.7	
	3月	49.0	47.3	50.0	47.6	
	4月	47.3	46.5	44.8	49.4	
	5月	45.9	48.0	46.7	45.9	
	6月	44.8	42.7	44.2	45.5	
	7月	45.8	43.1	46.7	46.9	
	8月	47.2	44.9	45.4	47.7	
	9月	49.1	46.8	47.4	48.3	
	10月	49.8	46.9	52.8	49.1	
	<u>11月</u>	51.6	48.7	52.2	50.0	
	12月	53.4	53.5	54.0	52.4	
17年	1月	52.0	52.0	55.4	52.1	
	2月	52.9	49.5	54.9	51.9	
	3月	52.4	52.5	54.1	49.7	
	4月	53.0	48.7	56.0	52.0	
	5月	53.1	51.7	55.6	48.6	



2. ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(1)景気の現状判断

5月の東海地区の景気の現状判断 D I (季節調整値)は前月差 0.6 ポイント上昇の 50.0 と 2 ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 1.1 ポイント低下の 50.8 と 4 ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を 4 ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連) D I は、同 1.3 ポイント低下の 48.5 と 2 ヶ月連続で低下し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなる D I は、同 1.0 ポイント低下の 55.3 と 2 ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す 50 を 6 ヶ月連続で上回った。

現状判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。5月調査では、回答総数が前月から増加する中、「やや良くなっている」が減少したが、「良くなっている」「変わらない」「やや悪くなっている」「悪くなっている」がそれぞれ増加した。この結果、全体では景気の現状を悪化方向で見ているウォッチャーの比率が上昇し、DIの低下につながった。

現状判断	良〈	〉身かか	亦わらわい	かや悪く	悪〈	回答
(回答者数)	なっている	なっている	変わらない	なっている	なっている	合計
2016年5月調査	1	18	127	63	13	222
6月調査	3	21	107	82	17	230
7月調査	3	24	129	63	10	229
8月調査	1	24	134	58	12	229
9月調査	1	24	126	62	12	225
10 月調査	3	33	136	53	10	235
11 月調査	5	29	132	54	11	231
12 月調査	5	53	113	40	6	217
2017年1月調査	2	47	133	37	7	226
2月調査	6	52	120	38	9	225
3月調査	3	53	129	36	4	225
4月調査	4	52	127	31	6	220
5月調査	8	46	128	39	8	229

家計動向関連の回答ごとの内訳を見ると、回答総数が増加(4月:149 5月:153)となる中、「良くなっている」(1 4)「やや悪くなっている」(25 30)「悪くなっている」(4 6)が増加したが、「やや良くなっている」(30 25)「変わらない」(89 88)が減少した。全体では景気の現状を悪化方向で見ているウォッチャーの比率が上昇し、DIの低下につながった。

三重県で 4 月中旬から 5 月中旬にかけて開催された「全国菓子大博覧会」の好影響を指摘するコメントが先月に引き続き複数見られた。

- ・5月前半に行われた全国菓子大博覧会には多くの来訪者があり活況であった。観光地にも例年を上回る来客数があり、経済効果が大きい。(一般小売店[土産]経営者)
- ・全国菓子大博覧会があったことで、客の購買意欲が高くなっている。(商店街代表者)



- JR高島屋ゲートタワーモールの新規開業効果を指摘するコメントも複数見られたが、恩恵を受けたところもあれば、あおりを受けたところもあるようだ。
- ・近隣に商業施設が新規開業して以降、買い回りで来客数が増加している。特に食品の売上が好調に推移している。(百貨店計画担当)
- ・ターミナル駅周辺では、オフィスや店舗の集積が高まり昼食難民が出るほどである。飲食店での消費も増えている。(旅行代理店経営者)
- ・全体的に低価格な状況は変わらないが、販売エリアによって格差が出ている。ターミナル駅地域は非常に好調だが、同じ交通拠点の空港売店の売上は減少している。量販店の売上は横ばいで、全体としては変化はない。 (商店街代表者)
- ・大型商業施設のオープンにより、来客数が減少している。(百貨店売場主任)
- 5月調査ということでゴールデンウィークに関するコメントが多いが、好調であったもの、そうでなかったものと結果は様々だ。
- ・5月は、旅行に出かける人が増加している。大型連体や天候の良い日が続き、行楽、スポーツ、イベントや新規開業のレジャー施設等の話題が多く聞かれ、余暇への支出は増加している。(旅行代理店従業員)
- ・ゴールデンウィークは来客数が多く購入客も多かったが、それ以降は、ランチのついでに売場に寄って商品を見る人が多く、購入は少ない。父の日の下見もあるが、その場では購入しない。ネット購入の下見に来店し試着だけして帰る人が多く、売上としては厳しい。(百貨店売場主任)
- ・1か月の間で浮き沈みがあり、客足は安定しない。ゴールデンウィークは新しい商業施設へ流れたが、後半はボーナス支給を見込んだ下見や購入が増え、高額商品の需要が高まっている。(百貨店販売担当)
- ・連休は外食をする人が多く、売上は弱含みである。気温が高めなことで肉料理を避ける傾向となり、めん類等のあっさりとした比較的安価な食材が主流となっている。(スーパー店員)
- ・今年のゴールデンウィークは、日並びの影響で特に書き入れ時とはならなかった。宿泊、食堂共に前年同期比で減少し、期間内のイベントは前年比30%減少とさっぱりであった。(観光型ホテル販売担当)
- ・連体があったが、客の様子を見ると、あまり出かけず何も予定がなかった人が多く、あまり景気は良くない。(美容室経営者)
- ・今月後半にはやや盛り返したが、ゴールデンウィークの売上には伸びが感じられなかった。(百貨店販売担当)
- ・5月は休みが多いため、来客数が減少している。(理美容室経営者)

気温が上がって季節商品が好調といった天候要因による改善をあげるコメントも引き続き見られる。

- ・例年より気温が高く、初夏の衣料品等の動きが顕著である。化粧品等を中心にインバウンドも好調を維持している。(百貨店経営企画担当)
- ・天候に恵まれたこともあり、冷めんやおにぎり等の販売が好調である。セールを行い、セール品の売上は良く 伸びているが、セールがなかったらそれほど良くはなかった。(コンビニエリア担当)

インバウンド消費は好調が続くという声もあれば一段落との声もある。

- ・例年より気温が高く、初夏の衣料品等の動きが顕著である。化粧品等を中心にインバウンドも好調を維持している。(百貨店経営企画担当)[再掲]
- ・インバウンドの伸びも一段落して収束し、高額品の動きも前年に比べて鈍くなっている。(百貨店販売促進担



当)

・近隣百貨店の増床で、3か月前には開店前の準備や期待感により街全体への集客効果が感じられたが、この 1か月は落ち着いてきている。最近は中国からの客も少な〈なっている。(その他専門店「雑貨」店長)

株高による高額品販売の好調をあげるコメントがある一方で、日用品である衣料品販売の厳しさを指摘するコメントも引き続きあり、二極化を指摘するコメントもある。

- ・売上高が前年同期比で伸びている。特に、高級ブランドや宝飾品等の伸びが大きい。株価の上昇が高価格帯 商品の売上増加の一因である。(百貨店販売担当)
- ・宝飾品等の展示会での客の反応は良いが、衣料品が中心の店頭では、厳しい状況が続いている。(百貨店経 理担当)
- ・洋服を見に来る客はあっても、購入には至らない。以前のように、質が良ければ高額でも購入することはなくなっている。(衣料品専門店「紳士服洋品」売場担当)
- ・5月は売上、来客数共に変わらない状況である。世の中が二極化しており、調子の良い客がけん引して売上が伸びている一方で、非常に厳しく節約している客もいる。ギフト需要としては、伸びている客と、付き合いの幅を狭める客がバランスし、良いとも悪いともいえない。(一般小売店「贈答品)経営者)

消費者の節約志向を指摘する声は相変わらず見られるが、節約志向が続く中で少しは前向きな動きも見られてきているとのコメントもある。

- ・生活用品や食品等の日常的な消費には、依然として節約志向が続いているが、旅行や娯楽等の非日常的な 消費については、積極的な姿勢が見受けられ、上向き傾向にある。(百貨店経理担当)
- ・価格が最も安い商品よりも、少し良い物や機能の高い商品を選ぶ客が増えてきている。(家電量販店店員)
- ・来客数は横ばいであるが、客は必要な物以外は買わない。客単価が上昇しないため、販売量や売上高の改善につながっていない。(商店街代表者)
- ・中高年層の消費マインドは多少上向きであるが、将来の不安要素は消えていないため、節約ムードは払拭できない。(一般レストラン経営者)

酒税法改正による駆け込みは期待外れであったようだ。

・アニサキスの報道で鮮魚や総菜部門の売上に影響が続いている。酒税法の改正で値上げ前の駆け込み需要を期待したが、特に大きな動きはな〈、値上げの情報が伝わっていない気がする。(スーパーブロック長)

その他、家計動向関連で気になるコメントとして以下のようなものがあった。

- ·60 歳以上の客が多いが、最近の製品は機能が複雑で、新たに買換えるメリットをなかなか理解してもらえない。 故障するまで使うという人が多く、増販は難しい。(商店街代表者)
- ・母の日以降、原因不明の売上低迷が続いている。ここ数か月は売上予算達成が続いていたが、5月は未達となっている。(スーパー販売担当)
- ・宝〈じの売上が今回は非常に悪い。自由に使える金が減ってきている。(コンビニ店長)

「乗用車販売店」のウォッチャーのうち、コメントを寄せたウォッチャーの現状判断は下表のとおりである。回答総数は4月調査から減少する中、「良くなっている」(0 1)「やや良くなっている」(0 1)「や



や悪くなっている」(0 1)がそれぞれ増加した。一方、「変わらない」(9 4)「悪くなっている」(1 0) は減少した。コメント内容については、これまで同様、販売会社によって好調、不調の温度差がある。

- ・販売量の動きが良い。問い合わせも多く商用車も趣味の車も売れて、とにかく良い。(乗用車販売店従業員)
- ・車の売行きには結び付いていないが、客との会話では旅行の話や外食の話が増え、生活を楽しんでいる様子がうかがえる。(乗用車販売店従業員)
- ・店舗の販売台数は前年同期比 90%で推移している。会社全体でも前年並みの販売台数である。(乗用車販売店従業員)
- ・ゴールデンウィーク後の店頭の状況は、弱含みで推移している。客には休み疲れなのか疲労感があり、商談でも緊張感が乏しい。主力車種がマイナーチェンジの予定で様子見の客もあり、営業の現場には活気がない。 (乗用車販売店従業員)

現状判断	良〈	かや良く	変わらない	やや悪く	悪〈	回答
(回答者数)	なっている	なっている	受わらない	なっている	なっている	合計
2016年5月調査	0	1	5	4	0	10
6月調査	0	1	3	3	1	8
7月調査	0	2	4	3	0	9
8月調査	0	1	6	1	0	8
9月調査	0	1	8	0	2	11
10 月調査	0	2	5	4	0	11
11 月調査	0	1	6	3	0	10
12 月調査	0	2	6	1	0	9
2017年1月調査	0	4	4	1	0	9
2月調査	0	4	3	2	0	9
3月調査	0	3	6	1	0	10
4月調査	0	0	9	0	1	10
5月調査	1	1	4	1	0	7

企業動向関連では、受注動向に関するコメントが多く見られたが、増えているところもあれば、減っているところもあり、企業によってまちまちのようだ。

- ·気温の上昇に伴い受注も活発になりつつある。特に冷菓関係では話題性のある新商品の投入もあり、今後に も期待がもてる。(食料品製造業経営企画担当)
- ·客先では受注量が増え、残業が増えている。売上が伸び、赤字が縮小している客も多くなってきている。(会計事務所社会保険労務士)
- ·客先の受託状況が活況で要員不足となっており、追加要員を毎月継続的に供給している。(その他サービス業[ソフト開発]社員)
- ・主に中小企業の受注が減っており、受注数が伸びない。(食料品製造業営業担当)
- ·受注量、販売量共に、ここ数か月は横ばいが続いており、景気は変わらない。(パルプ・紙・紙加工品製造業総務担当)
- ・受注量はほぼ変わらず、販売単価も引き続き低下傾向にある。(金属製品製造業経営者)



従業員の給与についてのコメントを見ても、企業によって様々だ。

- ・相変わらず良好な状況が続いている。企業の配当は過去最高水準で、労働者への還元は少ないといわれているが、最近は昇給もあり、労働者の懐はそれほど寂しくないはずである。(化学工業総務秘書)
- ·客先の中小企業の業績は改善しておらず、むしる収益性が低下している会社が多い。従業員の給与も上昇していない。(公認会計士)

当地の主力産業である工作機械、自動車関連は好調というコメントもあるが、自動車関連の生産動向は、横ばいからやや減少という慎重な見方もある。

- ・全体的にはさほど良くは感じられないが、工作機械、自動車関係等、限られた業種については好調を維持している。(電気機械器具製造業経営者)
- ・地域には自動車や関連部品産業が多いが、生産量は横ばい、又はやや減少という話が多い。(金融業従業員)

設備投資に関するコメントは様々。前向きな動きがある一方で、慎重な姿勢も見受けられ、盛り上がり に欠けている。低金利のプラス効果と同時に問題点を指摘するコメントもある。

- ・ケーブルテレビ事業者は、来年から始まる4K、8K放送への対応で伝送路の光化や広帯域化が急務のため、 設備投資が盛んになりつつある。(電気機械器具製造業総務担当)
- ・北米自動車業界向けの引き合いや問い合わせは増えており、雰囲気は悪くないが、受注までには至らない案件が多い。設備投資の意欲はあるが、実際の発注となると慎重な姿勢が目立つ。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・低金利が続き、設備投資の検討や実施をする会社が目立ち始めているが、設備投資の効果が業績に反映されている会社は少ない。無駄な設備投資が業績悪化を招いている会社も見受けられる。(会計事務所職員)

雇用関連については、求人数は増加するものの、求職者は減少との声が引き続きある。ミスマッチの問題もあり、雇用の逼迫が続いている。

- ·客先では、次の増産時期を見据えて、徐々に雇用者数を増やす動きがある。(アウトソーシング企業エリア担当)
- ・求職者数は前年同月比で1割程度減少している一方で、企業では、業務量の増加に雇用を増やしてでも対応を迫られている。(職業安定所所長)
- ·求職者数は変わらないが、未経験の若年者や扶養枠内での就業希望者が多く、企業の求人要件とマッチング しにくい。(民間職業紹介機関窓口担当)



(2)景気の先行き判断

5月の東海地区の景気の先行き判断DI(季節調整値)は前月差 1.2 ポイント上昇の 49.4 と 2 ヶ月連続で上昇した。原数値では前月差 1.9 ポイント上昇の 52.2 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上回った。分野別(原数値)にみると、家計動向関連のウォッチャーによる景気の先行き判断 DIは、同 1.5 ポイント上昇の 50.3 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 3 ヶ月ぶりに上回った。企業動向・雇用関連のウォッチャーによる景気の先行き判断 DIは、同 2.4 ポイント上昇の 55.9 と 2 ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す 50 を 2 ヶ月連続で上回った。

先行き判断の回答ごとの内訳をみると下表のとおりである。5月調査では、回答数が前回調査から増加する中で、「良くなる」「やや良くなる」「変わらない」が増加し、「やや悪くなる」「悪くなる」が減少、景気の先行きを改善方向で見るウォッチャーの比率が高まった。

先行き判断	良〈なる	やや	変わらない	ササ	悪〈なる	回答
(回答者数)		良くなる		悪〈なる		合計
2016年5月調査	1	36	139	38	8	222
6月調査	2	26	103	81	18	230
7月調査	4	28	143	45	9	229
8月調査	4	32	136	51	6	229
9月調査	4	33	133	50	5	225
10 月調査	6	46	126	50	7	235
11 月調査	3	46	123	49	10	231
12 月調査	3	45	116	45	8	217
2017年1月調査	3	41	129	46	7	226
2月調査	6	59	120	34	6	225
3月調査	2	43	123	49	8	225
4月調査	2	46	131	35	6	220
5月調査	3	53	139	29	5	229

家計動向関連の回答でも、5 月調査の回答数は 4 月から増加した(4 月:149 5 月:153)、「良くなる」(0)「悪くなる」(5)は前月と変わらないが、「やや良くなる」(29 33)「変わらない」(89 94)が増加し、「やや悪くなる」(26 21)が減少した。その結果、景気の先行きを改善方向で見るウォッチャーの比率が高まった。

家計動向関連の前向きなコメントとしては、お中元、ボーナス、夏休みといった季節要因による改善を 期待する声が多い。

- ・お中元やセールが始まるので、来客数の増加を期待している。(百貨店売場主任)
- ・高額のお中元商品の引き合いが増えている。(スーパー総務担当)
- ・ボーナス商戦で6~7月は動きが期待できる。(乗用車販売店経営者)
- ・ボーナスシーズンから夏休みに入る。世の中としては明るい話題が多く、何か政治的な問題が起きない限り、 良い方向に向かう。(乗用車販売店従業員)



・ボーナスの使い道が決まり、夏休みの家族旅行を計画するファミリー層に期待している。プレミアムフライデーで有給休暇を推進する企業があるようで、関連した旅行の問い合わせも増えているため、一層推進してほしい。 (旅行代理店経営者)

猛暑など天候要因への期待もある一方、暑さがマイナスになるとの声もある。

- ・猛暑の予報で栄養剤等の売上が見込まれ、やや良くなる。ただし、ターミナル駅の発展で都市部に客が奪われ、 地方の景気は悪くなる。地元の駅前に再開発の話はあるが、まだ先である。(一般小売店[薬局]経営者)
- ・6月も高い気温で推移する見通しで、夏物衣料品や雑貨等を中心に動きが活発となり、売上増加が期待できる。 (百貨店経営企画担当)
- ・今年の長期予報は猛暑の見込みで、エアコンや冷蔵庫等、白物の季節商材の動きが顕著になることを期待している。(家電量販店店員)
- ・これから暑くなるので、例年同様に客足が鈍くなる。(美容室経営者)
- ・暑さがピークとなる時期にかけては、消費が落ち込む。(商店街代表者)

酒税法改正の影響は、スーパーにはマイナス、コンビニにはプラス、全体ではマイナスと見られているようだ。

- ・前年同期比の客単価と予算比の売上は未達であるが、前年同期比の売上、来客数は、共に 100%を超えている。ビール類の値上げで、客単価は更に下がるが、売上は横ばいと見込まれる。(スーパー販売担当)
- ・ビール類の値上げで、スーパーやディスカウントストアから、宅配サービスのある店に客が戻るのではと期待する。(コンビニ店長)
- ・アルコール類の値上げで販売量が減少する。夏に向けてはビール類の販売を伸ばしたいが、増加を見込める要素がない。(スーパー企画・経営担当)

乗用車販売店のウォッチャーのうちコメントを寄せたウォッチャーの先行き判断をみると、以下のとおりである。回答数は4月調査から僅かに減少する中、「やや良くなる」は前月と同数(2 2)となり、「変わらない」が増加(6 8)「やや悪くなる」(3 1)「悪くなる」(1 0)が減少した。ボーナス商戦に期待する声もあるが、現状維持の見方が大半である。

- ・ボーナス商戦で6~7月は動きが期待できる。(乗用車販売店経営者)[再掲]
- ・ボーナスシーズンから夏休みに入る。世の中としては明るい話題が多く、何か政治的な問題が起きない限り、 良い方向に向かう。(乗用車販売店従業員)[再掲]
- ・悪〈なる要素は見受けられない。(乗用車販売店経営者)
- ・現状のまま変わらない景気が続いており、定着している。国の政策も目に見える効果は表れておらず、環境が 変化するようにも考えに〈い。(乗用車販売店経営者)
- ・当分は新型車種の発表もなく、新車の増販が見込める要素はないが、前年もかなり厳しかったため、地道な活動で前年並みの販売台数は維持できそうである。(乗用車販売店従業員)
- ·夏のボーナスは前年比で若干の減少が見込まれており、消費が盛り上がる気配はない。(乗用車販売店総務担当)



先行き判断	白 / t> Z	や サ	変わらない	ササ	悪〈なる	回答
(回答者数)	良〈なる	良くなる		悪〈なる		合計
2016年5月調査	0	3	8	2	0	13
6月調査	1	0	8	1	1	11
7月調査	0	4	7	1	0	12
8月調査	0	2	8	2	0	12
9月調査	0	1	11	1	0	13
10 月調査	0	4	8	1	0	13
11 月調査	0	2	7	4	0	13
12 月調査	0	5	6	2	0	13
2017年1月調査	0	3	7	3	0	13
2月調査	0	3	4	5	0	12
3月調査	0	1	3	8	0	12
4月調査	0	2	6	3	1	12
5月調査	0	2	8	1	0	11

企業動向関連では、トランプ大統領の政権運営などによる不透明感があるものの、外需への期待が見られる。工作機械、自動車関連といった当地主力業種の輸出の好調が見込まれるが、一方で国内向けは厳しそうだ。

- ・メキシコ自動車業界向け等、保留となっていた案件が受注できる見込みである。北米自動車業界向けの設備 投資も、動きが活発である。(一般機械器具製造業営業担当)
- ・有事となった際に経済にどう影響するか等、不安要因はあるものの、保護貿易主義的な動きは、ある程度抑制され、この先数か月は安定した推移が見込まれる。(電気機械器具製造業企画担当)
- ·会社の業績だけをみれば、やや良くなる方向であるが、北朝鮮や米国の政治問題等の海外情勢、為替の動向を考えると景気の方向感はつかみにくい。(化学工業人事担当)
- ・工作機械、自動車関係等の輸出物件による収益は増加し、若干の改善が見込まれるが、国内市場は販売単価等の状況が厳しく、まだまだ良くなるとは見込めない。(電気機械器具製造業経営者)

また、川下の物価上昇を前向きにとらえる声もある一方で、川上のコストアップを懸念する声が続いている。

- ・ガソリン価格等が下落するなかで物価は上昇しつつある。この動きから考えると、景気はやや良くなる方向である。 (輸送用機械器具製造業品質管理担当)
- ・配送単価が上がっていく。(輸送業エリア担当)
- ・燃料となる軽油価格の上昇が続いている。前年比で約16円の大幅な値上がりで、この先が心配である。(輸送業エリア担当)
- ・製品原料であるポリエチレンの仕入れが厳しい状況である。輸入原料の使用でコストが増加している。(化学工業営業)
- ・物流業界の人手不足は深刻である。コンプライアンス対応のコストと共に負担が大きい。(輸送業経営者)



雇用関連のコメントを見ると、求職者の減少やミスマッチによる雇用の逼迫は続く見込みであり、人手不足の景気への悪影響が懸念されている。

- ・求人数は増えているが求人条件はあまり変わらない。求職者数は減っており、企業には条件等の緩和を依頼 しているが、なかなか良い返事をもらえない。(職業安定所職員)
- ·求職者数が年間で一番少なくなる時期に入るため、求職者数の増加は見込みづらい。(民間職業紹介機関窓口担当)
- ・有効求人倍率等は高い水準を示している。現状の従業員で対応可能な業務量の、ほぼ限界に達している分野もあり、企業は、人材確保が進まなければ、これ以上業務を拡大できず、景気の改善も足踏み状態となる。(職業安定所所長)



景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方向性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果
 を公表している(地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表)。

「家計動向関連」: 商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など

「企業動向関連」: 製造業経営者、非製造業経営者など

「雇用関連」: 人材派遣会社社員、職業安定所職員など

- 主な調査項目は、次の3項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
 - (2) 景気の先行きに対する判断(方向性)
 - (3) 景気の現状に対する判断(水準)
 - (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の5段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答 区分の構成比に乗じてDIを算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DIは50となる ため、DI=50が景気の横ばいを示すこととなる。

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
評価	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらとも いえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+ 1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所)内閣府HP

● 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、静岡、岐阜、愛知、三重の4県が 対象となっている。

調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所: 三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記して〈ださい。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。